

# 6. ポリカナミ折板の施工

## 6-1 施工法

### 6-1-1 施工手順 (例)

1. ポリカナミ折板の荷揚げをして、取付準備をします。
2. 水下部折板の保護マスキングを剥離します。
3. タイツフレームの上に水下部折板をセットします。
4. タイツフレームに合わせて、ハンドドリルでポリカナミ折板に穴をあけます。

※この場合、水上部との重ね部はあけないようにします。

※剣先ボルトへの取付

パイプ (ポンチ) で開孔せず、ドリルをご使用ください。(図6)

5. タイツフレームとポリカナミ折板の仮締めをします。※パッキン併用
6. 水下部折板同士を緊結ボルトにより中間固定します。※パッキン併用
7. 水上部折板との重ね部に防水パッキンを2列取り付けます。
8. 1列は水下部折板の上端側から50mmの位置にもう1列は、水上部折板の下端部から20mm上部に取り付けます。(P41・42参照)
9. 水上部折板の保護マスキングを剥離します。
10. 水上部折板をタイツフレームの上にセットします。
11. タイツフレームに合わせて、水上部折板に穴をあけます。
12. タイツフレームとポリカナミ折板の仮締めをします。※パッキン併用

13. 水上、水下部折板の間に水上部折板の水下部よりシーリング材を打ちます。(図7)

14. 水上部折板同士を緊結ボルトにより、中間固定します。※パッキン併用

15. ボルトナット固定部全体の本締めをします。

16. 水下、水上面戸を取付けます。

17. 水上面戸と折板の間にシーリング材処理を行ないます。

18. 最後に総点検、清掃を行ない施工完了です。

図6

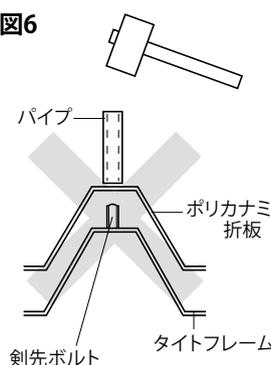
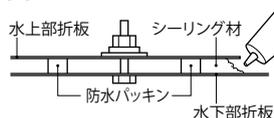


図7



### 6-1-2 重ね代

流れ方向には、150mm以上重ねてください。また、幅方向には、一山重ねてください。

### 6-1-3 パッキンおよびシーリング材

#### ●パッキン

水洩れ防止、および折板重ね代部の汚れ(ほこり等)防止のため、下記メーカーのパッキン材を使用してください。また、ボルト固定部のパッキンは、EPDM製発泡品を使用し、タール含浸パッキンのご使用は避けてください。

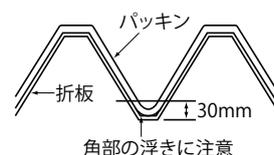
#### ●ポリカナミ用角パッキン

……………住友ベークライト(株)

●エプトシーラー……………日東電工(株)

●コンプリフォーム……………日東紡績(株)

座金とポリカナミ折板の間に入れるパッキンは、座金径より2mm程度小さい、6～10mm厚の打抜き品を使用してください。また、ポリカナミ折板の重ね代にはさむ防水パッキンは、12mm×12mmのテープ状のものを用い、ポリカナミ折板の上材の下端より20mm入った部分に取り付けてください。



#### 注 意

●パッキンの継ぎは、必ず折板の谷部より30mm以上高い所で行なってください。

●谷の部分の角部は、パッキンが浮きやすいので特に注意してください。

### ●シーリング材

ポリカナミ折板の重ね部の水密性を完全にするため、**アルコールタイプのシリコンシーリング材**を必ずご使用ください。また、シーリング材は、ボルト締め付け付近に付着させないでください。シリコンシーリング材にも、各種タイプがあり、成分中の硬化剤などの影響でクラックを発生させるものがあります。

使用できるシリコンシーリング材は、アルコールタイプの下記の製品を必ずご使用ください。

品名	メーカー	内容
トスシール・380	モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社	シリコン系アルコールタイプ
シーラント#72	信越化学工業(株)	シリコン系アルコールタイプ
SE960シーラント	東レダウコーニング(株)	シリコン系アルコールタイプ

### ●変形防止材

妻側端部の折板の断面が荷重をうけても変形しないように1000mmピッチ以下で取付けてください。

## 6-1-4 取付部材

ポリカナミ折板に使用する取付部材は、ほとんどが金属折板のものが使用できます。

下表に、それら部材の種類および使い方を示します。

### ●折板屋根に使用する部品の種類

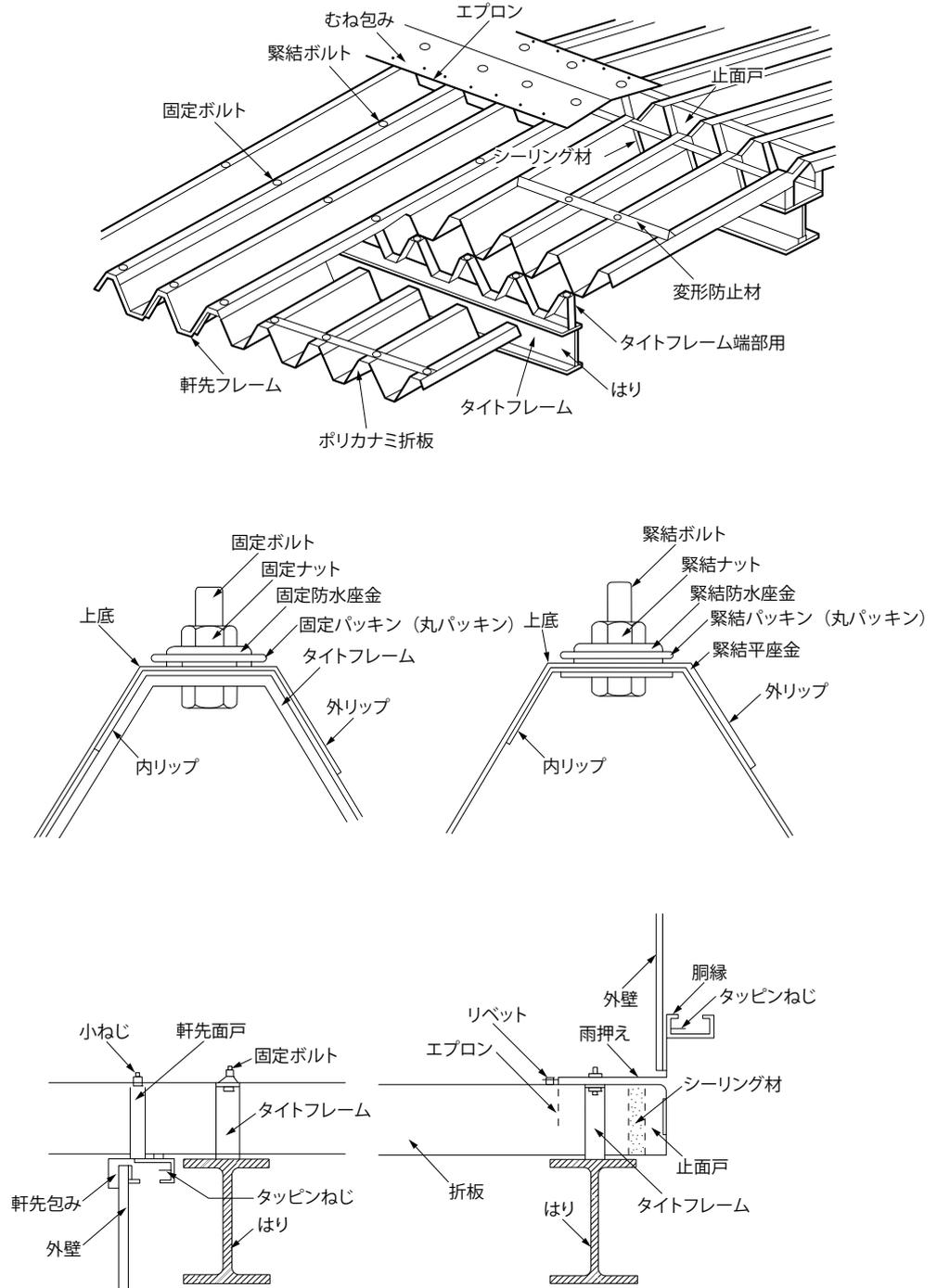
種類	部品名	機能
結合用部品	固定ボルト	タイトフレームと折板の固定に使用します。
	固定ナット	
	固定防水座金	
	緊結ボルト	重ね方式折板の折板相互の綴り合せに使用します。
	緊結ナット	
	緊結防水座金	
	緊結平座金	
補強用部品	タイトフレーム	はりまたは、母屋に折板を固定するために使用します。
	固定パッキン	固定ボルト穴からの浸水を防止するために使用します。
	緊結パッキン	緊結ボルト穴からの浸水を防止するために使用します。
付属部品	変形防止材	妻側端部の折板の断面変形を防止するために使用します。
	軒先面戸	折板と外壁面頂部の折板の断面空間の塞ぎに使用します。
	止面戸	むね、水切りなどの折板端部の断面の塞ぎに使用します。
	むね包み	むね納めの仕舞に使用します。
	雨押え	折板と壁面の交点部分の雨仕舞に使用します。
	エプロン	むね包みおよび水切り <sup>※1</sup> に併用して使用します。
	軒先フレーム	装飾の意味で折板の軒先先端に使用します。
	小ねじ	付属部品の取付け、綴り合せなどに使用します。
	ナット	
	防水座金	
	平丸座金	
	パッキン	付属部品の取付け、綴り合せなどに使用します。
	リベット	
不定形シーリング材	止面戸の周囲など防水の必要な部分に使用します。	

※1 折板の軸方向と直角の方向の水切りです。

取付部材の材質は、いずれも耐防蝕性のある亜鉛メッキ、もしくはステンレス製のものを使用してください。

●部品の使い方

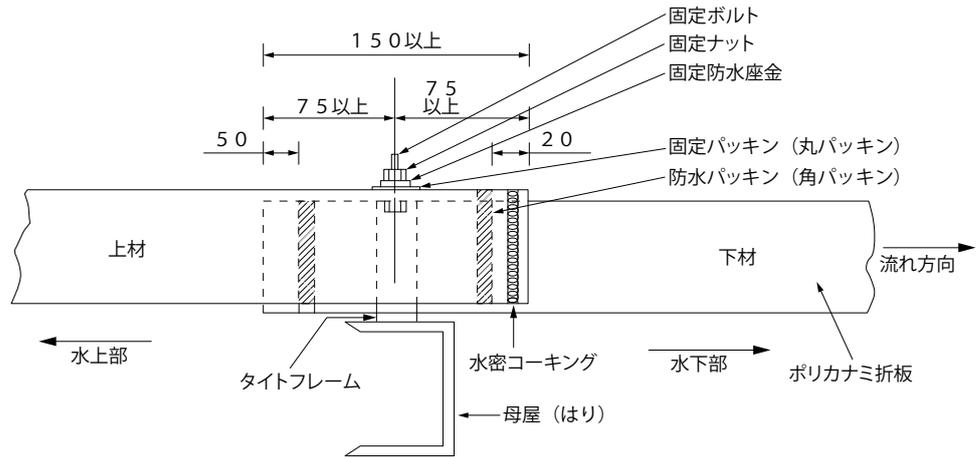
以下は、ポリカナミ折板の取付部品使用図です。取付けの際、参考にしてください。



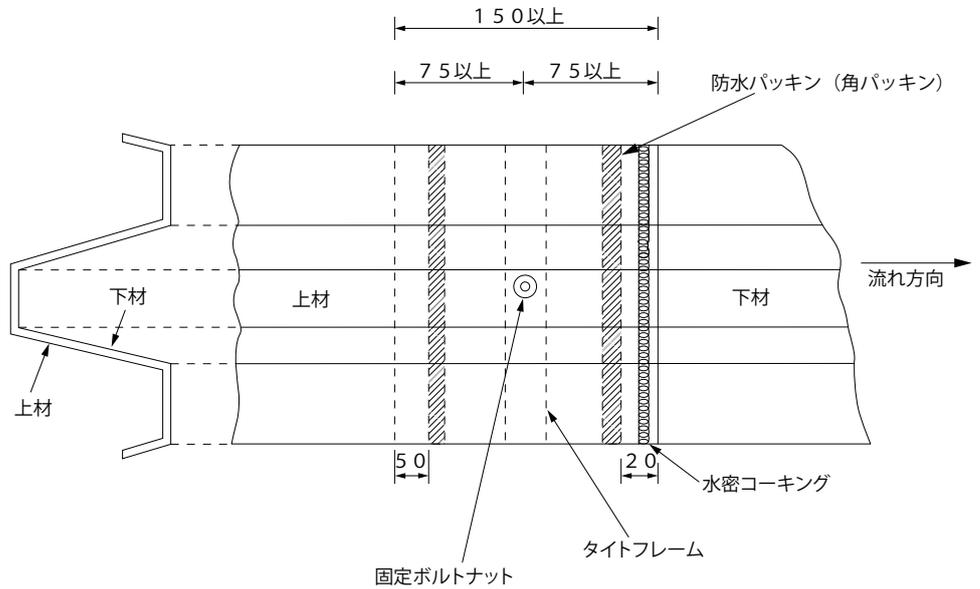
## 6-1-5 重ね部の施工例

### ●単純重ね

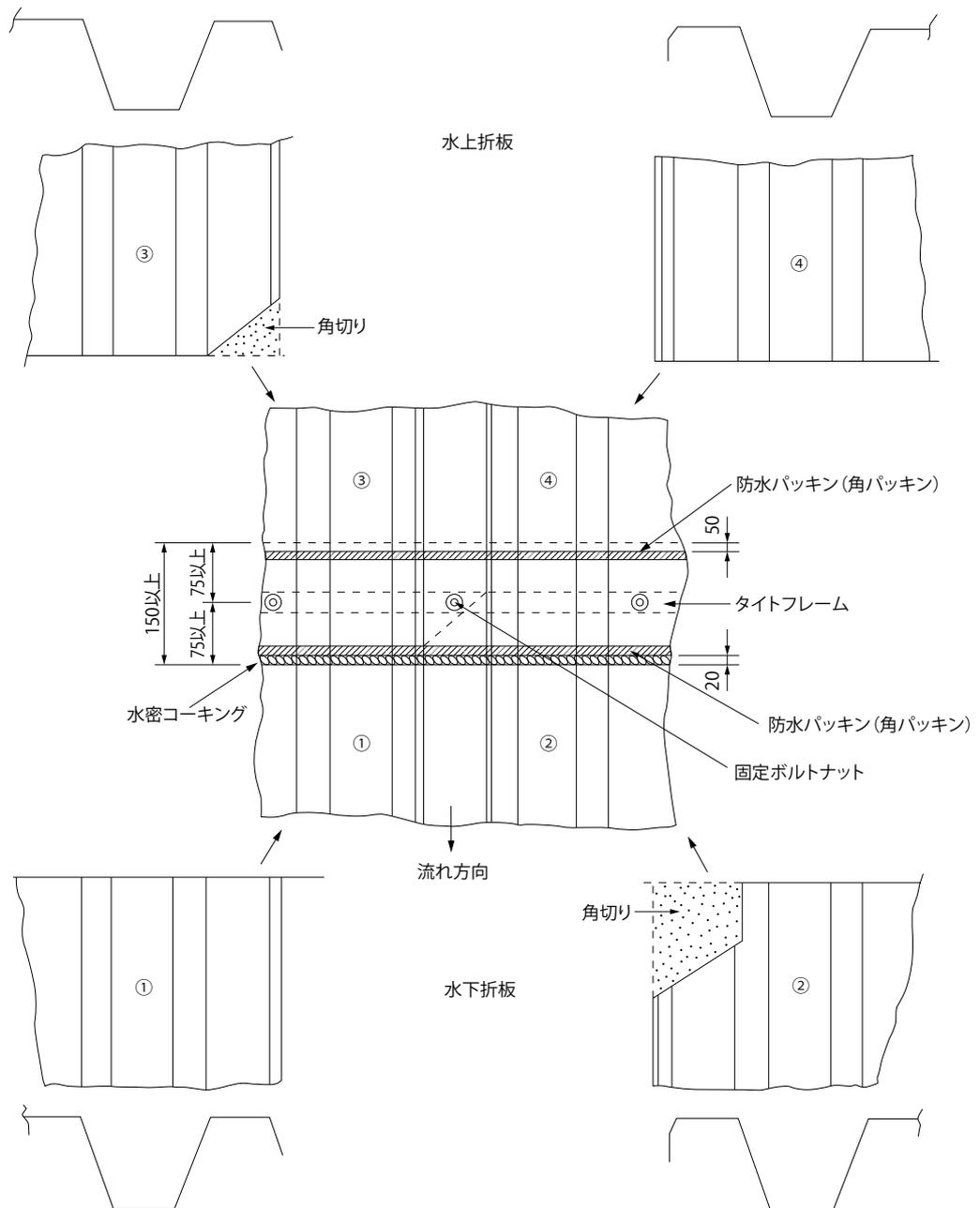
側面図



断面図および平面図



●角切り重ね



## 6-2 加工法

---

### 6-2-1 穴あけ

---

穴あけには、ハンドドリルを使用し、錐は金属用ドリルが使用できます。ポリカナミ折板は、ノッチに敏感ですので、よく研磨された錐を使用して、バリ・融着を発生させないように注意してください。

### 6-2-2 切断

---

ポリカナミ折板の幅切りには、レシプロソー（マキタ電機製作所）・電子セーバソー（日立工機）が適しています。

また、ポリカナミ折板の重ね部の角切りには、ジグソー・ハンドソー・レシプロソー・電子セーバソー等が使用できます。

## 6-3 メンテナンス

---

- ① 表面の汚れの除去は、乾いた布を使用しないでください。清掃は、ぬるま湯で薄めた中性洗剤（アルカリ系は、絶対に避けてください）で行ない、その後、きれいな水で拭き取ってください。（中性洗剤を薄める濃度は、各中性洗剤の標準使用法に従ってください。）
- ② 塗料のたれ・グリス・シーリング材等の汚れは、汚れが乾いていない場合はノルマルヘキサンを染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。ただし、汚れが乾燥しますと、除去が困難になりますので注意してください。  
なお、ベンゼン・アセトン・トルエン・四塩化炭素等の各種シンナーは、絶対に使用しないでください。
- ③ 塗装等の作業は事前に行ない、その後にポリカナミ折板の取付けを行なってください。
- ④ ポリカナミ折板の耐衝撃性はすぐれていますが、無理に人が乗ったり、物で打撃したりする危険な行為は避けてください。
- ⑤ ガラスに比べて傷つき易いので、上に乗ってクリーニングする場合、傷がつかないように配慮してください。